令和6年度大分県内部統制評価報告書

大 分 県

令和6年度大分県内部統制評価報告書

地方自治法第150条第4項の規定に基づき、令和6年度の知事部局の財務及び情報管理に関する事務等(以下「対象事務」という。)に係る内部統制体制の整備・運用について評価した結果を、次のとおり報告します。

1【内部統制の整備及び運用に関する事項】

知事は、地方自治法第150条に基づき、行政サービスの提供等の事務上のリスクを評価・コントロールするとともに、適正な執行体制(いわゆる内部統制)を整備・運用する責任を有しています。

本県では、「地方公共団体における内部統制制度の導入・実施ガイドライン」(平成31年3月総務省、以下「ガイドライン」という。)を参考に、「大分県における内部統制に関する方針」(令和2年3月19日)を策定し、当該方針に基づき、対象事務に係る内部統制体制の整備・運用を行っています。

2【評価手続】

今回の評価では、令和6年度を評価対象期間、令和7年3月31日を評価基準日として、ガイドラインの「IV 内部統制評価報告書の作成」を参考に、対象事務に係る内部統制体制の整備・運用について評価を実施しました。

(評価対象事項)

- ・全庁的な体制の整備
- ・業務レベルのリスク対応策の整備

3【評価結果】

本県の対象事務に係る内部統制体制は評価基準日において有効に整備されていました。一方で、後述のとおり、複数の所属において運用上の重大な不適切事案が発生したことから、評価対象期間における運用については不十分であると判断しました。また、令和6年度財務監査における指摘・注意事項が前年度から増加したことから、令和7年度からは、全職員向け研修に加え、新たに新任課長級研修等に内部統制に関する内容を盛り込むなど、同様のリスクを再び発生させないよう職員の更なる意識醸成を図り、内部統制制度が有効に機能するよう努めていきます。

4【不備の是正に関する事項】

運用上の重大な不適切事案の概要及び再発防止の取組は、以下のとおりです。事案を全庁で共有し、特に同様の業務を行う所属に対して注意喚起していくとともに、引き続き内部統制が有効に機能するよう制度の周知・徹底を図ります。

運用上の重大な不適切事案

(1) 公文書の偽造等を防止する仕組みが不十分・・・中部振興局

県が平成28年度から実施している工事に係る民有地の土地賃貸借契約について、令和元年度、県担当者が偽造した印鑑や相手方の筆跡を模倣した署名により、契約書及び請求書を偽造し、また、公印を無断で使用するなどして、相手方へ賃借料を支払ったもの。

(原因)

担当者の公務員倫理の欠如が主な要因ではあるが、所属内における契約事務の進捗管理やチェック機能、公印管理も不十分だった。

(再発防止策)

不正を未然に防止するため、事件発覚(令和2年度)後、用地補償契約の進行管理表を整備して進捗管理を徹底するとともに、契約書類の送付方法を特定記録郵便等に見直すなど、所属におけるチェック体制を強化した。

また、事件公表(令和6年度)直後に開催した主管課長会議や各所属への通知等を通じて、綱紀粛正・服務規律の保持、適切な文書事務と公印の保管及び使用を徹底した。

(2) 作業手順の管理等が不十分・・・農業大学校

搾乳作業において洗浄水が混入したが、そのことに気が付かないまま、洗浄水を含んだ生乳(322kg)を出荷したことにより、他生産者の出荷分を含む生乳及び加工された牛乳等の廃棄が生じ、出荷先等に対する損害賠償を行うこととなった(廃棄した生乳等は約 80.7t、損害賠償金額 14,918 千円)。

(原因)

搾乳作業工程(①パイプライン等の殺菌洗浄(自動運転)、②パイプラインのつなぎ替え作業等の搾乳準備、③搾乳開始)において、職員が搾乳時間に応じた洗浄時間の設定変更を行わなかったことにより、生乳に洗浄水が混入した。また、出荷時において搾乳量と出荷乳量の突合を行わなかったなど、作業手順及び出荷管理の確認が不十分だった。

(再発防止策)

全ての作業手順を検証のうえ、作業手順の現場への掲示や、搾乳工程のチェックリストの整備を新たに行い、作業従事者と他職員によるダブルチェックを実施するとともに、搾乳時間に応じた自動洗浄機の設定と確認、出荷時の搾乳量と出荷乳量の突合を徹底するなど、作業及び出荷時の管理体制を再構築した。

令和7年6月30日

大分県知事 佐藤 樹一郎